

中学校「道徳科」教科書を読み教育委員会に意見を言いましょう

子どもたちに「戦争を肯定する教科書」を渡さない市民の会(愛知 教科書市民の会)

今年は市町村教育委員会が、中学校初の「特別の教科 道徳」＝「道徳科」の教科書を採択します。

8社が計24冊の教科書を編集し、いずれも文科省の「検定」を通過しました。この「見本本」教科書は、下記の27の「教科書センター」で、7月2日(月)(最終日は閉館が多いので注意)まで展示されています。www.pref.aichi.jp/soshiki/gimukyoiku/0000071939.html

会場には、閲覧した市民が感想や意見を記入できる用紙が用意されており、記入後に投入するポストもあります。全く自由に意見を表明することができます。

①記名欄がありますが、匿名でかまいません。

②A4版用紙ですが、短くてもいいです。また、何枚書いても結構です(全く同じも文言はまずいですが)。

1冊が200ページ前後ありますから、会場に丸1日いても全冊を読み通すことは不可能です。

①ある1社をじっくり読む。

②視点、例えば「平和や戦争についてどのように扱っているか」を決めて、各社を比べてみる。などの対応が必要です。

当会が参加する「子どもと教科書全国ネット21」は、次のような視点・観点を提案しています。

①いじめがなくなるのか、思いやりのある子が育つのか。

②真理・真実を大切にしているか。侵略戦争を賛美したり、人権や民主主義をないがしろにしているか。

③人間として成長していくために必要なこと、たとえば、多様性を認め合うこと、批判的な精神をもつことなどが抜けていないか。

特に視点を決めなくても、次のようなことに気を付けてみましょう。

①話材(題材、教材)に問題点はないか。たとえば、日本国憲法の原則から逸脱する内容ではないか。

②話材末尾の設問(発問)に問題はないか。たとえば、学習指導要領の22の価値観(教科書のどこかには表示されている)に同化するように誘導していないか。

読んで気になる教科書があれば、出版社名と学年、話材名を明記して、問題点を具体的に述べたうえで、「こんな教材を載せる教科書は採択してほしくない」などと書きます。

「全国ネット21」の調査研究では、「お勧めできる教科書は1冊もない」という結論が出されています。もともと、「教科化」そのものに無理があるわけですから、当然でしょう。

では、どの社の教科書が採択されても同じことか、というと、そうではありません。特に問題点が多い教科書があります。「道徳専門の教科書会社」を自称する日本教科書株式会社(文科省は日科と省略)の教科書です。安倍「教育改革」の応援団である「日本教育再生機構」の八木秀次理事長が設立した会社ですが、現在は、ヘイト(「嫌韓・嫌中」などの民族差別)本や青少年への「有害図書」を発行してきた晋遊舎の子会社化しています(社長は同一人物)。日科教科書の性格や内容を一言でいえば、小学校用の「教育出版」の中学校版、あるいは、日本教育再生機構がつくり出した育鵬社の中学校社会科教科書(戦争を美化する歴史と日本国憲法を否定する公民)の道徳科版、です。

以下、日科の全般的な問題点を述べ、ネット21の具体的な分析を2, 3紹介します。

- ①「日本教育再生機構」が育鵬社から発行した「パイロット版道徳教科書」3部作(2012～14年)からの転用が多い。
- ②文科省著作の副読本『私たちの道徳』や指導資料からの転載が目立つ(2番目に多い)。
- ③戦中・戦前の「修身科」の教材・素材を多用している。
- ④アジア・太平洋戦争、他国侵略への反省・批判が皆無である。
- ⑤自国について過去・現在を問わず「日本すごい!」の独善的な評価が多い。
- ⑥巻末で、学習指導要領の徳目(国定価値)への同化の程度を自己評価するよう子どもに強要している。

1年「大地―八田與一の夢」

台湾総督府の土木技師だった八田與一は、干ばつや洪水、塩害に苦しむ台湾の人々のためにダムをつくった。その功績はいまも台湾の人びとに称えられている。

- ①育鵬社版歴史教科書や[育鵬社の]『はじめての道徳教科書』でも取り上げている、右派が好んで取り上げる定番の人物で、本文に8ページも割くほど力を入れている。
- ②植民地支配そのもの、また植民地支配のためのインフラ整備という根本的な枠組みを無視している。

台湾支配の経緯を学ぶのは2年生の社会科(歴史)、長い長一い文章でも、歴史の真実に対面する前に、1年生のうちに扱い終えておくのがよい、ということでしょうか。なお、八田の子孫が名古屋市に在住していて、蔵書等の遺品が鶴舞図書館に寄贈されています。

1年「志～幼少の記憶より～」

1学期の終わりごろ、最近何をやってもうまくいかない[なぜか]2年生のおそらく男子が、陸上競技の走り込みの途中で松下村[邨]塾の前を通る。そこに掲げられていた「志」の文字を見て、自分も勉強や陸上競技を頑張ろうと思う。

- ①吉田松陰を持ち出したいがためのオリジナル題材。吉田松陰を持ち出したいがための強引かつ不自然な展開。1年生の題材なのに中学2年の設定。
- ②幕末・明治の「志士」を一面的に礼賛。日本近代史への美化にもつながっている。
- ③『『志』を持つのはつねに男』とも読める。ジェンダー視点からの分析も必要。

「大東亜共栄圏構想」の元祖、松陰を尊敬するという首相が喜びそうな話材です。この首相が世界遺産「産業革命遺跡」に無理矢理に組み入れた、「松下邨塾」の写真も載っています。そういえば、2006年に教育基本法を改定した直後に、この首相は「成立した教育基本法にのっとり、個人の多様な可能性を開花させ、志ある国民が育ち、品格ある美しい国・日本をつくることができるよう、教育再生を推し進めます」と言っていました。2年には首相そのものが登場します。

2年「白菊」

日本による「真珠湾攻撃」で知られるハワイのホノルルで、戦後70年の節目の2015年8月15日に、長岡市の花火を、慰霊や鎮魂、献花として打ち上げようとの計画が持ち上がった。だが、ホノルル側での多くの反対や批判の噴出もあって、実現にはおよそ1年もかかった。長岡市は真珠湾攻撃を指揮した軍人・山本五十六の出身地というつながりもあり、数年来の平和交流ののちの姉妹都市提携もあってのことだった。長岡市がどうしても上げたかった花火が「白菊」で、戦後に花火大会を復活させた花火師が、自身のシベリア抑留の辛い苦しい体験の中で亡くした大切な友の慰霊・鎮魂のために考案した花火であった。

花火とそれを打ち上げるまで、どんな経緯で双方が和解できたのかが詳しくわからない。次のページに、「和解の力」という安倍晋三首相のスピーチ(2016年12月27日)が、軍艦の泊まるパールハーバーの写真とともに掲載されている。現職の特定の政治家を教科書に掲載したこと、また、特定宗教＝神道の行為である「慰霊」を強調したことは、教科書検定基準に違反しているのではないか。

小学校教育出版と同じく、育鵬社応援団である首相に対する返礼のつもりなのでしょうが、私物化とも言います。検定基準「(4) 政治や宗教の扱いは、教育基本法第14条（政治教育）及び第15条（宗教教育）の規定に照らして適切かつ公正であり、特定の政党や宗派又はその主義や信条に偏っていたり、それらを非難していたりするところはないこと。」